

カラスがカニを隠した！ カラスの「貯食」^{ちよ しょく}行動



打ち上げられていたカニ籠



「貯食」とは、木の实など食べ物を貯蔵する野鳥の行動を指す言葉で、カラス、ヤマガラなどに見られるそうです。実は6月、偶然石狩川河口近くで、この「貯食」と思われるカラスの行動を目撃しました。見たのは初めてで、大変驚かされました。

その日、浜沿いを河口に向かって歩いてみると、河口の少し手前に赤いカニ籠が打ち上げられていました。中をのぞくと、生きたカニがたくさん入っていました。カニは石狩で「川ガニ」あるいは「ガニ」と呼ぶ川のカニで、正式には「モクズガニ」といいます。有名な「上海ガニ」と近い種類で、近年は人気だそうです。

さて、カニを取り出し写真を撮っているところ、カラスが1羽、近くの流木に

止まりました。カニが流木の方へ行くと、突然カラスは木から飛び降りてカニをくわえ、地面にたたきつけはじめました。間もなくカラスがもう1羽来て、別のカニに攻撃を加えます。食べようというのです。撮影を終えて歩いていると、カニをくわえたカラスが前を横切りました。川岸の木の枝などが打ち寄せられているところに降り、しきりに頭を動かしています。向こう向きでよく見えませんでした。何度か枝をくわえ下に置いたようです。1分もしないうちにカラスが飛び立ちました。カニはくわえていません。急いでそこに行きましたが、カニは見当たりません。



かぶせた葉をとると…



カニが隠されていた！

とお切りとった葉はカニにかぶせてあり、見えなくなっていました。やはりカラスはカニを隠していたのです！ 最初も同じ行動だったでしょう。翌日のぞいてみると、かぶせてあった葉がどけてあり、カニは無く、忘れず回収して行つたようです。

カラスの賢さは知っていました。が、これほどだとは思いませんでした。

(石橋孝夫)